税金を納めましょう

町県民税 第4期分
国民健康保険税 1月分
納期1月31日まで

秋穂町公報

昭和38年1月15日
第63号

山口県吉敷郡
発行編集 秋穂町役場
秋穂町(電話4番)
印刷所 国次印刷所

人に迷惑を
かけないように
しましょう

年頭のことば

町長 藤生仕郎

昭和三十八年の新春を迎え町民の皆様に心から御喜びを申し上げます。

皆様方もそれぞれ新しい希望と理想を胸にいだかれこの輝しい新春をお迎えになった事と存じます。

さて、過ぎ去った昨年を振りかえって見ます時、米ソの両陣営は互に冷戦を続けて居るとは云いながら、現実にはキューバ、中印国境等、局部的には熱い戦となって現われて居ります。翻って国内の状勢を見ますと、政治経済共に必ずしも隆昌の一途を辿ったとは申せません。昨年度の経済其の他の諸情勢は、我々に一抹の不安をいだかせ乍ら、新年を迎えましたが、思いを本町に致す時、農業基本法に基く農業構造改善事業の実施段階の初年度に於きまして、国の指定を受け新春早々から着工の運びとなって居りますが、これによって皆様と共に本事業を推進し、また、酪農養豚養鶏事業の増大と経営の進歩は、所得の倍増となり飛躍的な発展をする時が訪れて来たと考えられます。このことを皆様方の熱意と努力の賜物だと存じて皆が御同慶にたえないところであります。

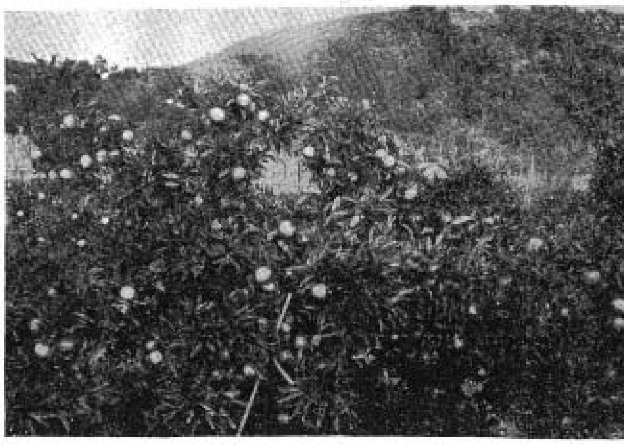
商工水産業に於きましては貿易の自由化が我が国の経済に大きな影響をもたらしつゝある今日、独り本町のみ例外ではありません。近年不振をきたして居ります沿岸漁業は獲る漁業から作る漁業へと体質改善がなされておる時、全国で五ヶ所設置の内その一つの種苗センターが本町に誘置され明年三月完成を目標に突貫工事が進められて居りますこれ等は将来漁業協同組合漁業者の方々と共に十分活用し漁業の振興に一段と努力する所存であります。

大海港の修築、海岸保全の施工、花香港湾の局部改良また、県、町道の改良整備拡張、中学校の特別教室新増築等、順調に進んでおり、八月以来工事を進めて来ておりました養老院は、定員も百名となり中国一の老人福祉センターが出来上って居ります。

懸案でありました広域簡易水道もすでに配管の大部分を終り家庭へ水を送って居ります。今後もこれ等の事業と共に塩田跡の活用失業対策事業の推進、或は又、福祉の面についても更に意を注ぎ住みよい明るい町造りに努め続けたいと存じて居ります。

皆様方のより一層の御指導御鞭撻をお願い致しまして年頭の御挨拶と致します。

頌春



昭和38年

新年を迎えて

秋穂町議会議長 岡田甲

皆さま、明けましておめでとう御座居ます。

旧を送り新を迎え更に一歳の新齢を迎えました事は吾々の無上の幸福と欣喜に堪えない次第であります。

冥途の旅の云々と申しますが、正月を迎えると吾々の考えまでが嬉しくなるのは何故でしようか。

申すまでもなく古きを捨て新しきを喜ぶ吾々お互は年改まると共に心気新に今年こそは〳〵と新しい希望に燃えるからであります。この希望があればこそ吾々は来る年も〳〵若々しい心を蘇えたゝせて居るのであります。人間万事この若々しさがなければなりません。

「一年の計は元旦に」この機に於て大いに内省し楽しい嬉しい中にも思を深く廻して今后の方針を決めなければなりません。そしてお互に相倚り相扶けて真に自分の力一杯の働きをしたいものと思います。

農業構造改善、塩田跡地の高度利用等本町に於ても未曽有の大事業が山積みして居ります。

決議機関の町議会としてもこの大事業完遂の大行進の先頭に立って邁進したいと存じて居ります。

皆さまの御協力御援助を願い、年頭の挨拶と致します。

志気も新らたに 消防出初式

昭和三十八年、新春を飾る消防出初式が、五日午前九時から、秋穂小学校講堂において来賓多数を迎え挙行されました。

式終了後、雨天にもかゝわらず放水訓練を実施して日頃の消防精神を大いに発揮しました。

出初式で表彰を受けられた方々を紹介します。

山口県消防協会表彰
功績章 古川 孝也
十五年勤続表彰 繁永 廷利

秋穂町長表彰
功労章 呑櫃 一民
藤山 文男 道中 惣一
精勤章 末広 直茂
森重 緑 徳永 敏雄
大森 雷三 市嶋 登田
永年勤続章
上田 伴二 繁光 恭一
人名救助表彰 藤田 松男
時繁 勝彦

消防協力者表彰
内田 友 倉橋 良助
舛富 高夫 古谷芳太郎
吉松 貞兼 有富 ツヤ
広中キミ子
花香南北子供会

自衛消防団永年勤続者表彰
内田 清 磯部 保正
磯部 猛 道中 真市
田中 信二
網永松五郎
田原 始政
安村 顧一
田中 義質
村中 幸治
安光 茂人
吉松 重則
山本 安二
前田 幸祐
立水 大一
武田 賢一
原田 文男

作文表彰
村岡 克枝
小野 絹
井方 崇子

写真は当日の勇壮な放水訓練

民生委員児童委員が改選されました

民生委員児童委員は、民間篤志家としてまた社会福祉行政に対する協力機関として社会福祉増進のため顕著な成果を挙げられて居ります。近時社会福祉関係諸施策の進展に伴ってこの民生委員児童委員の果される役割は益々重要度を加えて居ります。この民生委員児童委員の任期は、三ヶ年となっておりまして昭和三十七年十一月末で任期満了となりました。

民生委員児童委員の改選は民生委員推せん会で委員候補者を推せんしてこの候補推せん書を県、それから厚生省へ届け、各審議がなされ民生委員は、厚生大臣から、児童委員は、県知事から各委嘱辞令が交付されます。本町の民生委員児童委員には次の方々が委嘱されました。

尚今回選任された民生委員児童委員各位の多年の御労苦を深く感謝致します。

民生委員児童委員名

氏名	担当部落
岡本シゲ子	大河内南北
松広 滉子	浜中、天神町
梠山 清作	北条、中条
内田ヒサヨ	井南、浜内
村光 栄助	小浜、赤崎
松冨伊之助	日地
原田八重子	金山領、西青江
上田 博人	祇園町
藤田 秀一	東青江、中道
田中 隆亮	下村
平田 雄三	花香南北
安光 虎一	中野
山下 只市	中津江
福江 衛敏	東天田、西天田、宮ノ旦
片岡 義輔	塩戸、加茂、海岸通
山県 コト	黒潟北
河野 精一	東本町、上本町、本町
村岡 雄一	黒潟南

匿名の心温る歳末たすけ合い

昨年も匿名の歳末たすけ合いの御浄金がありましたが本年も亦、次のような御手紙に金一、〇〇〇円也を添えて御送金がありましたので恵れない方々に別掲のように贈りました。匿名の贈主に厚く御礼申上げます。

住民課宛(原文のまま)御免下さいませ。是は誠に少しで御座いますが募金のたしにして下さいませ。

あけましておめでとうございます

町議会
議長 岡田 甲
副議長 田頭 正甫
議員
田中 藤雄　金谷 行蔵　赤瀬 純一　竹岡 一薫　時乗 一郎　清岡 正夫　金子 勝吉　西村 利治
松冨伊之助　藤田 修三　大塚 俊介　中村小治郎　吉永 十一　若村彌次郎　梠山 清作　時繁 友吉　冨永 孝雄　緒方 保一
村光 栄助　松冨伊之助　安光 武夫　原田 定市　平山 雄三　片岡 義輔　三尾 徹一　杉本 孝市　奥田 一男　繁田 英雄　原 道睦　田中 槇一
藤田 忠一　原田 一男　中村 柳甫　磯部 清白　山下 只市　市嶋 孝一　五東 勇一　有冨 正直　貞滝 静一　福井 真玄　松西 信行　田中 昭定
議会事務局長 原野 哲郎

町役場
町長 藤生 仕郎
助役 福江 勝
収入役 岡田 圭治
総務課長 緒方 烈
産業課長 井方 敏弘
住民課長 松本 久雄
税務課長 横沼 登
施設課長 岡広 勤二
大海支所長 入江 五郎

農業委員会
会長 河野 梅治
副会長 西村 利治
委員 倉橋 良助
若村彌治郎　上田友佐夫　平田 正男　吉田 善治　河野 恒雄　原田 一男
岡光 良一　松本 治長　福江 光久　田中 藤雄　中代 光夫

監査委員
山本 定市
緒方 保一

選挙管理委員会
委員長 福嶋 一男
委員 林 貫一
倉橋 良助　福江 衛敏

国民健康保険運営協議会委員
委員長 末貞 巌
副委員長 糸中 久男
委員 平田 新作
有富 正直　松本 喜一
松永 信彦　安光 虎一
中代 光夫　安田 民子

教育委員会
委員長 福永 章一
委員 有富 正直
藤出 キヨ
松広 嘉男
教育長 原田 福松
秋穂小学校長 西村 一夫
大海小学校長 磯部 一穂
秋穂中学校長 岡 新吾
農高秋穂分校主任 田中 穣

民生委員
総務 上田 博人
副総務 岡本シゲ子
松広 滉子　内田ヒサヨ　松冨伊之助　藤田 秀一　山下 只市　河野 精一　安光 虎一　山県 コト
梠山 清作　村光 栄助　原田八重子　平田 雄三　片岡 義輔　田中 隆亮　福江 衛敏　村岡 雄一

区長
浜崎寅四郎　原田 吉郎　中川 寿雄　三好 貞市
谷 圭介　浜中 九郎　山根 繁樹　為末 計典

瀬戸内海水産開発株式会社の秋穂進出きまる

町では、かねてより塩業廃止以後の塩田跡地の高度利用について、産業開発委員会等で鋭意研究、関係方面と折衝中の処、この程交渉が成立致しました。

即ち、花香、中津江塩田跡地約八万五千坪の敷地に瀬戸内海水産開発株式会社の進出がきまりました。

当社は、本社を東京に置く海老その他海産物の養殖事業を行う全国屈指の水産開発会社で、二月中には関係工事が進められて来ますが、将来秋穂の産業発展に大きな力となることでしょう。

医療費統計から

秋穂町の国保被保険者が、治療に要した費用を年度別に表わしてみますと、表①のようになります（三十四年は十月から翌年の三月まで、三十七年は四月から九月までの半年間の数字です）医療費は年々増加を辿っておりますが、この一番の理由は表②でおわかりのように被保険者が、年々お医者にかかる割合が増えてきているということです。

この間三十六年七月と、十二月の二回にわたって医療費の改訂がなされ急激に上昇しておりますが、秋穂町でもこれによって増加した割合は約一割五分程度の数字となっており表③のように三十五年と三十六年との差がはっきりと出ております。

この表は一件当り費用額ですが、一人が一ヶ月の治療に必要な経費としてみれば参考になるかと思われます。

三十八年九月から医療費地域差撤廃等について議論されておりますが、これによって増加する割合は六%と見込まれ、秋穂町で年間費用額約一四〇万円の増加となります。

又一方では保険給付内容充実改善等が検討されておりますが、いずれも医療費の増加で保険者独自がこれを改善することは困難であり、国の財政措置でこれを補うことが妥当であるとして、強く政府に陳情運動を展開しているところです。

表①　年度別医療費額調　単位千円

年度＼区分	入院	外来	歯科	総計
34（10～3）	2.018	3.124	1.840	6.982
35	4.359	7.851	3.326	15.536
36	5.861	10.306	3.611	19.718
37（4～9）	4.417	5.500	1.885	11.802

表②　年度別100人当り受診件数

年度	受診率 秋穂町	受診率 山口県
34	180.2	237.1
35	210.1	253.1
36	226.3	273.1
37	237.7	291.1

表③　年度別入院外来歯科別 月一件当り費用額調　単位円

年度＼区分	入院	外来	歯科	総計
34（10～3）	10.910	666	1.362	1.121
35	12.314	696	1.236	1.084
36	14.726	855	1.472	1.322
37（4～9）	19.807	868	1.569	1.549

ご存じですか？

国民年金の保険料が未納になっている被保険者の不利

一月は国民年金の保険料の基準月です。今までに保険料が納っていない人は必ず今月末日までに納めましょう。

イ、将来老令年金（六十才又は六五才から）が受けられない。

ロ、他の公的年金（厚生年金、船員保険、各種共済組合等）との通算が出来ず、通算老令年金が受けられない。

ハ、不慮の事故でケガをしたとき（二級程度以上）障害年金が受けられない。

ニ、万一夫が死亡しても母子年金が受けられない。

ホ、夫や父、祖父、息子が死亡した場合に準母子年金が受けられない。

ヘ、両親が死亡しても、子供が遺児年金を受けられない。

ト、現在五二才以下の人は、無拠出の福祉年金も受けられない。

以上のような不利益が発生します。現在二十才から五二才（明治四四年四月一日以降生れ）までの者でほかの年金制度（厚生年金、船員保険、各種共済組合等）に加入していない人は、国民年金法により強制被保険者になるわけです。

但し、他の年金制度に加入している人の配偶者及び恩給の資格のある人は強制被保険者ではありませんが希望で国民年金に加入出来ます。国民年金は発足以来再々改正され加入者に有利になっています。

保険料は月百五十円または百円で、その二分の一に相当する額を国が別途負担することになっています。一日も早く加入した方が有利ですから、まだ加入していない人は、町役場で加入の手続きをとってください。

職業訓練指導員免許資格者講習会（三十五時間訓練）案内

目的

この講習会は、自分が従事している職種について職業訓練法にもとずく職業訓練指導員の免許資格を得ようとする者に対し、職業訓練指導員として必要な指導方法についての知識を付与する講習会であります受講資格は、次のうちどれかに該当する者

(一) 一級技能検定に合格した者

(二) 免許を希望する職種の実務経験が十五年以上の者

(三) その職種について旧技能者養成指導員の免許を受けた者

但し次に該当する者は、受講できません。

(一) 禁治産者及び準禁治産者

(二) 禁錮以上の刑に処せられた者

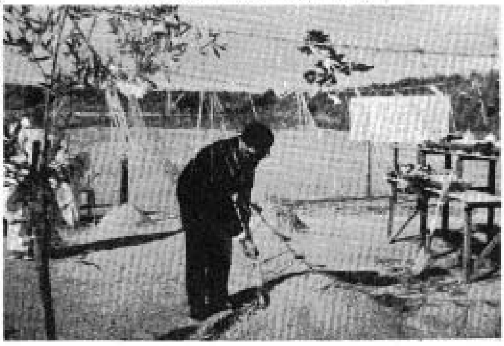
(三) 職業訓練指導員の免許の取消を受けて二年以内の者

実施月は、三十八年二月、受付期日は一月二十日より月末まで県庁内山口県職業訓練指導係、となっております。

詳細については、住民課えお問合せ下さい。

山口県種苗センター 着工される

当日の県知事の鍬入式の模様



昨年十二月十七日午前十一時から県種苗センターの起工式が中津江塩田跡で行われました。

この種苗センターは、県沿岸漁業構造改善事業（漁船漁業の近代化、魚類養殖の浅海養殖の推進をはかる事業）のトップを切って着手されたもので、獲る漁業からつくる漁業をめざしての体質改善に拍車をかけることでしょう。

種苗センターの面積は、約三万坪で事業費は一億三千五百万円このたびは第一期工事として着手されたものです。完成後は、クルマエビ、フグ、ワカメなどの種苗を供給することになります。

お知らせ　公的年金と併給の福祉年金の裁定請求の受付

公的年金（恩給、扶助料遺族年金等）と福祉年金の併給は前号でそのあらましをお知らせしましたとおり本年十月から実施されることになりました。

その内容は、公的年金を受けている人の年金額が、二万四千円（基準額）未満であるときは福祉年金の額を限度として、二万四千円と、その公的年金の差額を支給しようとするもので公的年金が戦争公務に基づき支給されるものであるときは、この二万四千円を七万円としております。

これらに該当する方は、福祉年金の裁定請求書を提出しなければ受給権はあっても福祉年金は貰えません。

また、裁定請求書には公的年金証書（恩給法、援護法等の改正により増額されるものは増額された後の新しい証書又は保管証）や住民票の謄本、戸籍抄本、印鑑が必要ですが福祉年金にはいろいろな支給制限がありますので、町役場住民課国民年金係に御相談の上、請求の手続をして下さい。

歳末たすけ合い運動の実績と配分

昨年十一月末に本町社会福祉協議会が開催され、三十七年の歳末たすけ合いの募金配分方法等が協議されまして募金は、一世帯当り五〇円程度、お米の場合五合程度を皆様の温い思いやりで拠出して頂く事になり、民生委員会、婦人会、各区長さん方始め皆様方の御協力により次のような成果を得まして、これを恵まれない方々に贈りました。

この募金に婦人会の各部落支部長さん始め世話役或は役員の方々の一方ならぬ御労苦を深く感謝致します

募金総額九七、八七〇円

配分先

一、町内の恵まれない家庭一三〇世帯え
金、八八、〇〇〇円

一、中央養老院や療養所病院或は各種施設に入所者え
金、一〇、八〇〇円

尚本年は、お米は換金して配分いたしました。

配分額のうち九七〇円は町社会福祉協議会予算より支出しております。

又、募金の中には、山口農高秋穂分校生徒さんより五七五円也、町内匿名氏より一千円也、拾得金二百円を警察より受けられた一女性より拠金下さいました分も含まれて居ります。

国民健康保険だより

◎秋穂町国民健康保険の給付内容が良くなりました

一、療養給付期間の延長

同一疾病等についての療養給付期間は三ケ年でしたが昭和三十七年十月一日より二年延長し、五ケ年となりました。

二、助産費額の引上げ

被保険者が出産したときは助産費として一、〇〇〇円支給されていましたが十二月一日から二、〇〇〇に増額されました。

保険係からのお願い

◎転出、転入、及び出生、死亡、あるいは社会保険えの加入、脱退等で被保険者に移動のあった場合は、被保険者証に印鑑を添えて十日以内に必ず届出して下さい

◎現在どの保険制度にも加入していない人は、すぐに国保え加入し、不時の疾病に備えましょう。

◎交通事故等で第三者から被害をうけた場合、それに要する治療費は保険給付出来ません。若し被害を受けた場合は保険係え連絡して下さい。

◎保険給付で療養費払い（本人が治療費を全額支払い、後から保険者に請求して半額払い戻しをうけること）の支給を受けようとする場合は、事前に保険者の了解をとられるようお知らせいたします。

町え連絡がないと支払が出来ない事があります念為

香典かえし篤志

昨年十月二十一日三河内隆丸氏母堂がおなくなりになりました。

喪主隆丸氏より社会福祉のためにとの御意志で、香典がえしとして四万円を寄託されました。

謹んで御礼申し上げますと共に故人の御冥福をお祈り致します。

職業訓練生募集

最近の日本経済の成長によって技能労働力の不足は著しく増加しております。

職業訓練所は、新規学卒者に対する技能教育訓練はもとより、一般の失業者、求職者及び農業漁業等からの転職希望者に対しても門戸を開いております。

募集要領は、次のとおりとなっております。詳しい事は住民課へお問合せ下さい。

職種	専門 二年制	転職 一年制
鈑金科	二〇名	二〇名
溶接科	一五名	二〇名
機械科	一五名	一〇名
木工芸科	三〇名	一〇名
自動車整備科	四〇名	二〇名
女子事務科	三〇名	

募集期間及び申込

昭和三十八年一月五日より一月三十一日までに入所申込書を職業安定所に提出

入所資格

義務教育修了以上の男子（事務科は高等学校卒業又は同等以上の学力を有する女子）